

教宣 せぶん

12月8日へ レッツゴー

13日と20日の証人調べの詳細がどぶいたニュースにアップされました。大変なボリュームですが、これを読めば、傍聴していない人も裁判の様子がつかめるのではないのでしょうか。「森のなかの様子」がわかるのではないのでしょうか。また、リード文には、この地位確認訴訟の「現況」「要旨」「論点の違い」などがわかりやすくまとめられています。これを見れば、この訴訟の全体像がよくつかめると思いますし、今後の展開も容易に予想できるのではないのでしょうか。

会社は労使の専門委員会でのやり取りや団交の交渉経緯についてはレターで流します。一番詳しく載せるのは何でしょう？それは労使の専門委員会でのやり取りです。例の「10の意見に賛成。」「20の意見に同感で……」というものです。また、「裏メール」ではどうか知りませんが、私たちとの団交の様子がレターで出された場合は、それらは必ず何らかの意図を秘めています。そして、都労委での審問の様子や裁判でのやり取りは決して「報道」されません。そういうことがあるということさえ、一般の従業員は知りません。結局、この経営は、自分たちに都合の良いことは全体に詳しく知らしめて、利用できることは利用して、不利になることは隠してしまう体質を持っているということです。まさに企業論理です。マングローブの植林は商業的に使いますが、従業員の「首切り」は決して世間には公表しません。法令順守を掲げていても、守らなければならない法と守らなくても良い法があるという考え方と相通ずるものがあると思います。

私たちにできることは、やはり会社が伝えたくない、知らされたくないと思っている「事実」を、より多くの人に伝えることではないのでしょうか。11月のヤマであった証人調べは大成功に終わりました。次のヤマは12月8日です。東京海上日動社も含めて、従業員の生活や雇用を何とも思わない、企業利益優先の、傲慢な会社を社会的に包囲しましょう。3つの企業がいまやっていること、私たちに仕掛けてきている攻撃を、社会や世論に訴えましょう。より多くの人に「事実」を伝えましょう。時節柄、多くの人が「関心」を持ってくれるはずですよ。

先日、保険金不払い問題で頭を下げる石原さんの写真が日本経済新聞に掲載されましたが、都労委からの「組合差別をやめなさい」という命令が下されれば、経営は私たちに頭を下げるのでしょうか？地位確認訴訟で「原告勝利」の判決が下されれば、経営は私たちに頭を下げるのでしょうか？都労委の転進支援策に関する是正勧告にも従わなかったメンツを大事にする経営が、私たちに簡単に謝るとは思えませんが、

法令順守を真っ先に掲げる企業のトップが、法令に従っていないと判断されれば、誰に対しても謝らなければならないと思います。守らなくても良い法などないのでから、「迷惑をかけた」「悪いことをした」と判断されれば、誰に対しても素直に謝るといふ良識ある経営者になってもらいたいと思います。そのためにも世論の力が必要です。12月8日に向かって力を集めましょう。